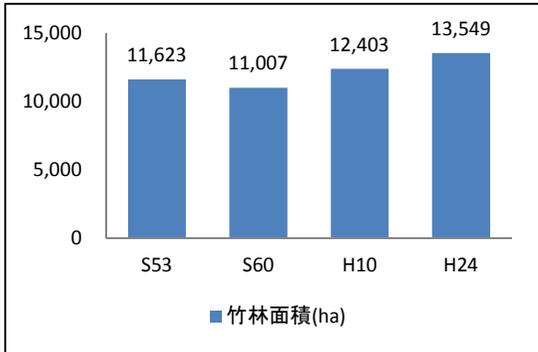


現状と課題

1. 竹林面積が増加傾向



2. 大雪により雪害発生



3. 整備は事業費が高む

※広葉樹林化の場合、200～300万円/haを要する。

4. 需要が減少

	S53	S60	H10	H24
竹材生産量(千束)	570	506	447	59
タケノコ生産量(t)	1,705	1,630	211	917

対策

〈対象地〉

- ①観光地周辺
- ②幹線道路沿線
- ③集落周辺
- ④里山周辺
- ⑤奥地

1. 竹林環境改善整備事業（森林環境税）

①広葉樹林化

【事業内容】 伐竹+広葉樹等植栽
【伐竹実施者】 市町村

【実績】 H26見込：2箇所 1.02ha

②空港道路沿線竹林整備

【事業内容】 伐竹+広葉樹植栽等

【伐竹実施者】 県、杵築市、国東市、日出町
【実績】 H26見込：民有地 0.97ha 県有地0.4ha



H25実施由布市湯布院周辺

③優良竹林化

【事業内容】 荒廃竹林を竹材、タケノコ生産林へ転換

【伐竹実施者】 竹材・たけのこ生産者

【実績】 H26見込：伐竹整備 17.20ha、簡易作業路 3,090ha

2. 県民提案事業（森林環境税）

NPO、ボランティア団体等の提案による竹林整備（伐竹、たけのこ堀り、炭焼体験等）の実施、地域行事（うすき竹筒、日田千年あかり等）にも活用

3. 森林・山村多面的機能発揮対策交付金

NPO、地域の自治会、森林組合等が行う竹林の伐採・搬出・処理・利用

基本的に整備対象外（支障とならない場合）

4. 他部局の竹関係事業（森林環境税）

■商工労働部

- ・県産竹材利用促進事業（竹文化アートコンペティション開催、竹工藝職人のために貸し工房設置）
- ・竹工藝品海外販路開拓事業（米国市場に適合する新製品の開発、米国での販促活動）
- ・竹材伐採・竹材活用促進事業（竹工者に対する伐竹技術の研修）

■土木建築部

- ・県営都市公園里山利活用推進事業（スポーツ公園、ハーモニーパークで竹にふれあえるイベント開催）

5. 公共造林事業（国庫補助）

- ・スギ、ヒノキ人工林への侵入竹を除去
- ※H27より新たな竹林伐採単価設定

今後の竹林整備に向けた新しい取組み

1. バイオマス発電用原料としての実用化に向けた取組 (荒廃竹林対策には新たな需要を開拓する必要あり)

平成26年6月にバイオマス発電所で燃焼試験実施
場所: (株)グリーン発電大分

■試験結果

・竹はバイオマス発電燃料として使用可能
・竹チップの受け入れは木材と混焼(混合率5%程度)ならば問題ない。

■課題

①竹に含まれる「Na」と「K」は、炉を傷める可能性があるため、試験体数を増やし検証する必要がある。

②バイオマス発電所への搬入コストを下げる必要あり。

機械化による経費低減化

(伐採) バンブーカッター → (集積) ウインチ付きグラブ →
(チップ化) ログバスター → (トラック運搬) → バイオマス発電所



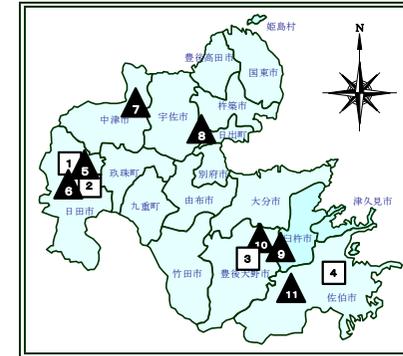
バンブーカッター



ログバスター

◎竹材の切り出しからバイオマス発電所への持ち込みまでの一連の流れを機械化することで経費を軽減化する。

【県内のバイオマス発電施設及びチップ化工場】



□バイオマス発電施設

番号	稼働年度	社名	場所 (市町村名)	出力規模 (発電量kw)	木質燃料使用量 (生千t)
1	H18	(株)日田ウッドパワー	日田市	12,000	120
2	H25	(株)グリーン発電大分	日田市	5,700	70
3	H28	アールイー大分(株)	豊後大野市	18,000	210
4	H28	(株)エナリス	佐伯市	2,500	40

▲チップ化工場(詳細略)

2. 機械化による効率的な竹林整備の推進

(現行) 経費約 2, 0 0 0 千円



(伐竹) チェンソー



(集材) 人力



(チップ化) 竹粉碎機

(今後) 経費約 1, 4 0 0 千円



(伐竹→チップ化) プッシュチョッパー
※チップはバイオマス発電に使用できない。